

施工説明書

テレビドアホン

品番	VL-SZ35KF VL-SE35KF VL-SE35KL VL-SE35XL	VL-SE35KF VL-SE35KL VL-SE35XL
----	--	-------------------------------------

セット品番	ドアホン親機の品番	ドアホンの品番
VL-SZ35KF 電源コード式	VL-M235	VL-V572L (広角レンズ)
VL-SE35KF 電源コード式	VL-ME35	VL-V523 (標準レンズ)
VL-SE35KL 電源コード式	VL-ME35	
VL-SE35XL 電源直結式	VL-ME35	

施工をされる方へ

- 施工説明書をよくお読みください。正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、施工前に必ずお読みください。施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
- 電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。
- 施工終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。
- 本書に記載のイラストや画面はイメージです。実際とは異なる場合があります。
- ドアホンの設置説明で、機器によって異なる箇所は、品番を分けて説明しています。ご使用の機器に該当する箇所をお読みください。(品番は識別しやすいように、[VL-V523]を[V523]、[VL-V572L]を[V572L]のように記載しています)

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。
- お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。
禁止		してはいけない内容	
注意		実行しなければならない内容	

警告

火災・感電・漏電などを防ぐために

- 分解・修理・改造しない
→ 修理は販売店にご相談ください。
- 雷のときは配線工事をしない
- 指定以外の機器は接続しない
- 指定以外の端子に電源(AC100V)を接続しない
- コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100V以外での使用はしない
(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります)
- 電源(AC100V)を入れたまま配線工事をしない
- ドアホン親機は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない
- 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない
 - ・傷つける、加工する、器具具に近づける、コードに過度なストレスを加える(無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)
 - (傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります)
 - 修理は販売店にご相談ください。

- AC100Vの電源直結工事は資格を持つ者が行う
→ 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。
- チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100Vが通電されていないことを確認する
→ 販売店へご相談ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

注意

感電などを防ぐために

- 土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない
(絶縁劣化により、感電の原因になることがあります)
- 土中埋設配線する場合は、保護管を使用する
- 屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する

けがなどを防ぐために

- 落下しないようにしっかりと取り付ける
(落下により、破損やけがの原因になることがあります)
→ 石こうボード、ALC(軽量気泡コンクリート)、コンクリートブロック、厚さ18mm以下のベニヤ板など、強度の弱い壁は避け、指定の方法で取り付けてください。

付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

ドアホン用	ドアホン親機用
<input type="checkbox"/> 木ねじ(2個) (3.8mm × 20mm)	<input type="checkbox"/> 壁掛け用木ねじ(2個) (4mm × 16mm) <input type="checkbox"/> 壁掛け用小ねじ(2個) (4mm × 25mm) <input type="checkbox"/> 壁掛け金具(1個) ドアホン親機背面に装着されています。外してから使います。
<input type="checkbox"/> 小ねじ(2個) (4mm × 25mm)	<金具の外しかた> 金具を下方に強く押し下げたあと図のように取り外す

- 壁の材質によって付属のねじが使える場合は、材質に合わせて市販のアンカーなどをご確認ください。

設置上のごお願い

設置場所について

こんなところには設置しない (故障や動作障害などの原因になります)

- 振動、衝撃のあるところ
- 反響の多いところ
- 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- 温度変化が激しいところ(結露による誤動作の原因)
- テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコンなどの近く(故障や動作障害などの原因)

ドアホンの設置について

- 底面の水抜き穴をふさいだり、北向きに設置すると結露しやすくなります。
 - ・ドアホン周囲の温度差によって、ドアホンのカメラレンズが結露し、映像が見えにくくなる場合がありますが、故障ではありません。
 - ・断熱材(発泡スチロールなど)を用いて、壁の穴を埋めるか、壁とドアホンの間に挟むと結露しにくくなります。
- 逆光になる場所への設置は避けてください。
(来訪者の顔が暗く映り、識別しにくくなります)
- 下図のように反響の多い場所では、「ピー」という音(ハウリング)が生じることがあります。

- ドアホンの防塵・防水性について
V523はIP44、**V572L**はIPX3です。(詳細は取扱説明書の39ページをご参照ください)
- 背面に水などが直接かからないようにしてください。
- 近傍に照明がある場合、遮光や減光が必要場合があります。(照明光の映り込みや夜間の映像劣化防止)

設置上のごお願い(つづき)

設置場所について(つづき)

ドアホン親機の設置について

- 本体の上下左右に20cm以上の空間をとってください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 本体を埋め込まないでください。
- 右図のように、ドアホンとの間は約5m以上、別売の電話/ファクス(ドアホンアダプター含む)との間は約1m以上離してください。
(ハウリングなどの通話障害や通話の途切れ防止)
- 携帯電話の基地局やテレビ局の近くなど、強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音身にノイズなどが入ることがあります。

工事について

- 電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。
 - (1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
 - (2) 3mm以上の接続距離を有し、容易にアクセス可能な分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線2線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値(直流ループ抵抗)を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500Vにて1MΩ以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗10Ω以内(配線距離100m以内で)

- 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
 - ・使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁(電源線とその他の信号配線の間)を設ける。
 - ・金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
 - ・配線材はAC600V以上の絶縁電線を使用する。
- ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。
(金属管は必ず大地アースをすること)
- AC100V以上の電力線(電灯線)とは1m以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。(映像の乱れや通話ノイズなどの防止)
- ドアホン親機の信号線接続端子は、連結端子になっているため以下の方法での結線を行う。
(接続できる線種などについては「線種と配線距離について」)

<ドアホン親機背面>

配線材を挿入する場合

- ・配線材の被ふくを9mmむく。
- ・ドライバーの先などでボタンを押ししながら配線材を確実に端子に挿入する。

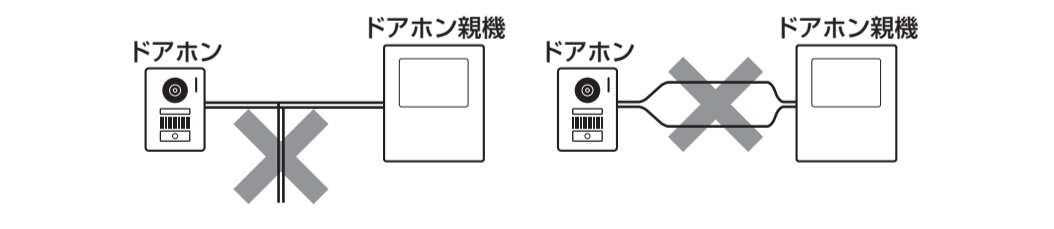
配線材を抜く場合

- ・ドライバーの先などでボタンを押ししながら配線材を引き抜く。

- 誤配線、ショートなどがいないことを確認後、ドアホン親機の電源を入れる。

既設(チャイム/ベル/ブザー/テレビドアホン/音声ドアホン)の配線を使用して本機を取り付けるとき

- 既設の配線に電源(AC100V、24Vなど)が接続されている可能性があるため、必ず電気工事士の資格を持つ者が工事をしてください。(誤って接続すると故障の原因になります)
- 工事の際は、まず既設配線の電源を切り、配線材の線種と配線距離を確認してから配線してください。
 - ・本書の「線種と配線距離について」の内容に合わない場合、正常に動作しないことがあります。
 - ・線種がφ1.2mmを超える場合は、配線材を取り替える
 - ・線種が「より線」のときは、指定の方法で接続する(※裏面「2」ドアホン親機を取り付ける)の手順③)
- ドアホン親機とドアホン間に不要な配線材があるときは、取り除くか新たに配線してください。また、下記のように配線材を分岐したり、極端にばらしまたりしないでください。正常に動作しないことがあります。



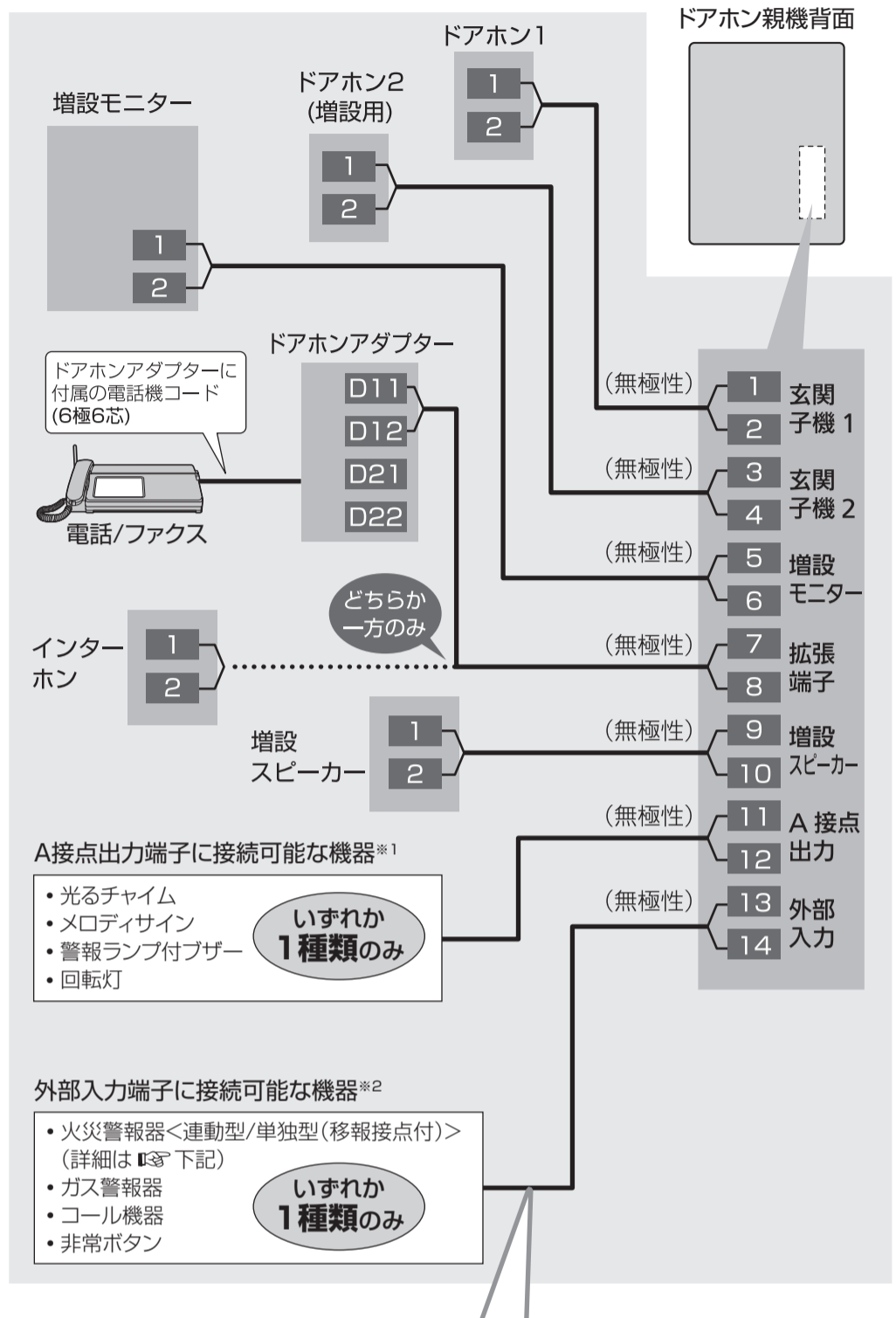
線種と配線距離について (下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります)

配線区間	線種	配線距離(総延長)
ドアホン～ドアホン親機～増設モニター ※		
ドアホン親機～ドアホンアダプターまたはインターホン	インターホン用平行2線式ケーブル 単芯線(mm)：φ0.65～φ0.9	100m以内
ドアホン親機～増設スピーカー		75m以内
ドアホン親機～A接点出力端子に接続可能な機器		接続する機器の仕様に従う
ドアホン親機～外部入力端子に接続可能な機器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線(mm)：φ0.65～φ0.9	50m以内

※増設モニターを接続する場合は、「ドアホン」～「ドアホン親機」～「増設モニター」間の配線距離の合計が100m以内になるように配線してください。

配線系統図

この配線系統図および「線種と配線距離について」に従って正しく配線してください。
● 接続できる機器の詳細(品番など)は、取扱説明書39、40ページをお読みください。



● 火災警報器を接続するとき(火災警報器のタイプによって接続方法が異なります)

連動型の場合：移報接点アダプタが必要です

連動型 (子器) (親器) 最大14台まで

赤 青 白 青

移報接点アダプタ*3 SH2890K

13 外部 14 入力

● ドアホン親機に直接、連動型の火災警報器を接続しないでください。(故障の原因)

● 移報接点アダプタとの配線時は、線の色を間違えないでください。(故障の原因)

電池式・単独型(移報接点付)の場合

単独型

並列接続で 最大15台まで

13 外部 14 入力

● 単独型を複数台接続する場合も、外部入力端子への入線は、1端子あたり1本にしてください。

AC100V端子式・単独型(移報接点付)の場合

単独型

最大15台まで

13 外部 14 入力

- ※1 ● 下記の定格に適した機器を接続してください。並列接続はできません。
(故障の原因になります)
- ・定格負荷：AC、DC 24V / 0.3A 以下 ・最小適用負荷：DC 5V / 1mA
- 接続した機器の動作については、本機の取扱説明書(※3 34ページ)および接続機器の説明書をお読みください。
- ※2 ● 下記の定格に適した機器を接続してください。
(A接点/B接点のどちらの接続点でも接続いただけます)
- ・入力方式：無電圧メーク接点 ・端子間開放電圧：DC 7V以下
- ・検出確定時間：0.1秒以上 ・接点抵抗値：メーク時 500Ω以下
- ・端子間短絡電流：5mA以下 ブレーク時 15kΩ以下
- 接続した機器をご使用になるには、接続機器の種別に合わせて「外部入力」設定の変更が必要です。(※3 取扱説明書29、32ページ)
- ※3 **ワイヤレス連動型の移報接点アダプタ[SH3290K]を接続することもできます。**
 - ・ドアホン親機と「SH3290K」間には有線接続です。
 - ・「SH3290K」と、ワイヤレス連動型の火災警報器間は無線で連動します。
 - ・設置の際は、ドアホン親機を移報接点アダプタと火災警報器から、それぞれ1m以上離してください。
 - (近接すると、移報接点アダプタと火災警報器間の電波到達距離が短くなる場合があります)

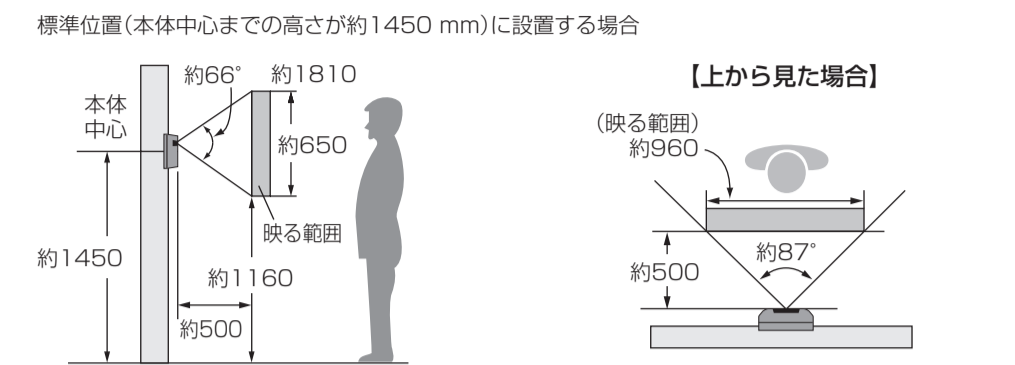
詳細は、「SH3290K」の説明書をお読みください。

1 ドアホンの取り付け位置を決める

ドアホン(V523)の取り付け位置(高さ)と撮影範囲

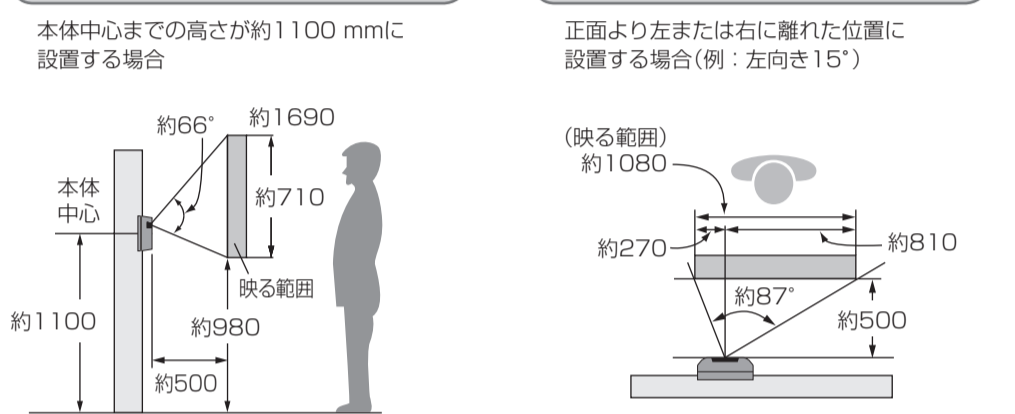
VL-SE35KL/SE35XLに付属のドアホンに関する内容です。(図中の寸法単位:mm)

カメラ角度0°(正面)のとき(お買い上げ時)



下図のように、標準位置より低い位置や、左または右に離れた位置に設置する場合には、カメラ角度調節レバーで、撮影範囲を調節できます。(※「2 ドアホンを取り付ける」の手順3)

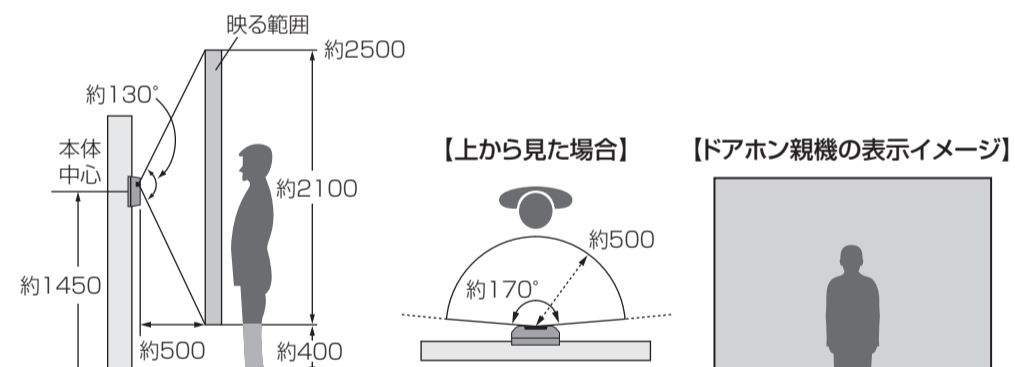
カメラ角度15°(上向き)のとき



ドアホン(V572L)の取り付け位置(高さ)と撮影範囲

VL-SZ35KF/SE35KFに付属のドアホンに関する内容です。(図中の寸法単位:mm)
 ● 来客から呼び出されたとき(着信時)の撮影範囲は、ドアホン親機の「ワイド/ズーム設定」でワイドまたはズームのどちらかに設定できます。(※取扱説明書13ページ)

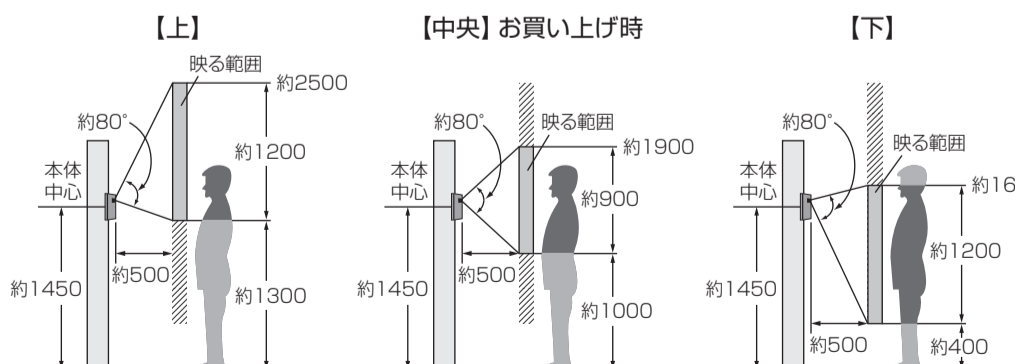
ワイドのとき(お買い上げ時)



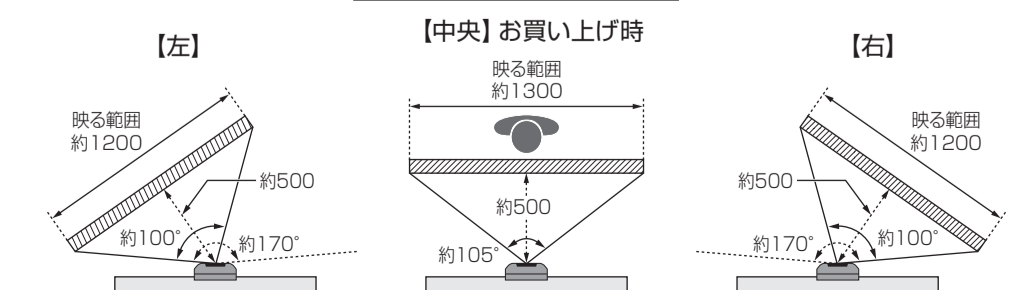
ズームのとき

ワイド時の撮影範囲の一部を縦横約2倍に拡大表示します。
 ● ズーム時の撮影範囲は、ドアホン親機の「ズーム位置設定」で任意の位置から選べます。下記を参考にドアホン親機で設定してください。(※取扱説明書13ページ)

上下方向



左右方向(上から見た図)



エントランスボール、サインポスト、カメラ角度調節台への取り付けについて

取り付ける場所や位置に応じて下記の機器をご利用ください。

ドアホンが**V572L**の場合
 広角レンズのため、ドアホンの周囲にポストなどが設置されると、撮影範囲にポストの一部が映り込み、適正な映像範囲が得られないことがあります。

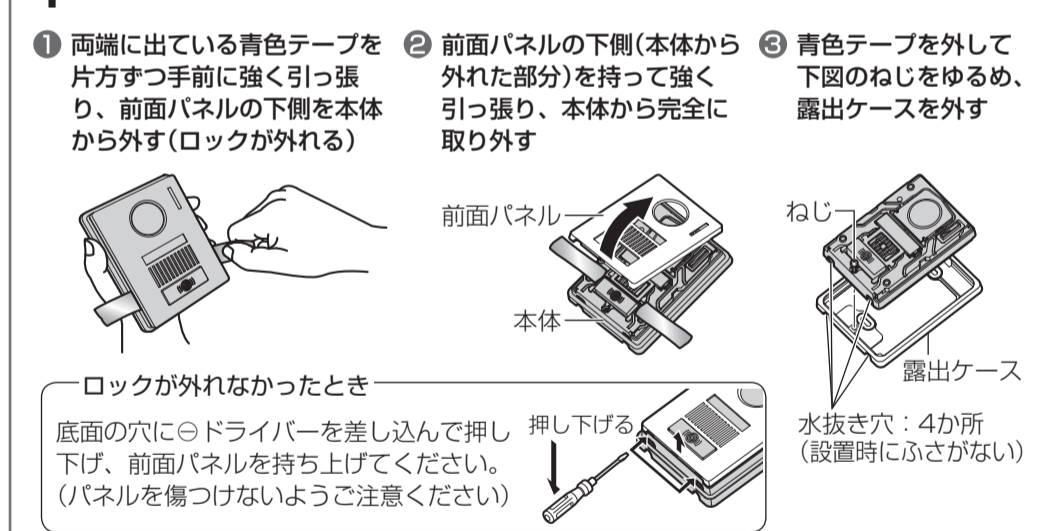
● エントランスボールやサインポスト：パナソニック(株)製 (2019年6月現在)	
エントランスボール(機能門柱)	アーキフレーム(A~D、F、Gタイプ)、アーキッシュボール、ユーロボール、MOOD(ムッド)ボール、アルモナ
サインポスト(郵便ポスト)	ユニサス(ブロックタイプ、ブロックスリムタイプ)、フェイススFFフラット・カメラ取付けタイプ

● カメラ角度調節台：パナソニック(株)製 (2019年6月現在)		
品番	備考	ドアホンの取付角度を変えることができます。詳しくは、カメラ角度調節台の説明書をお読みください。
VL-1301A	縦用 補正角度：上下方向 6°	
VL-1302A	横用 補正角度：左右方向 30°	

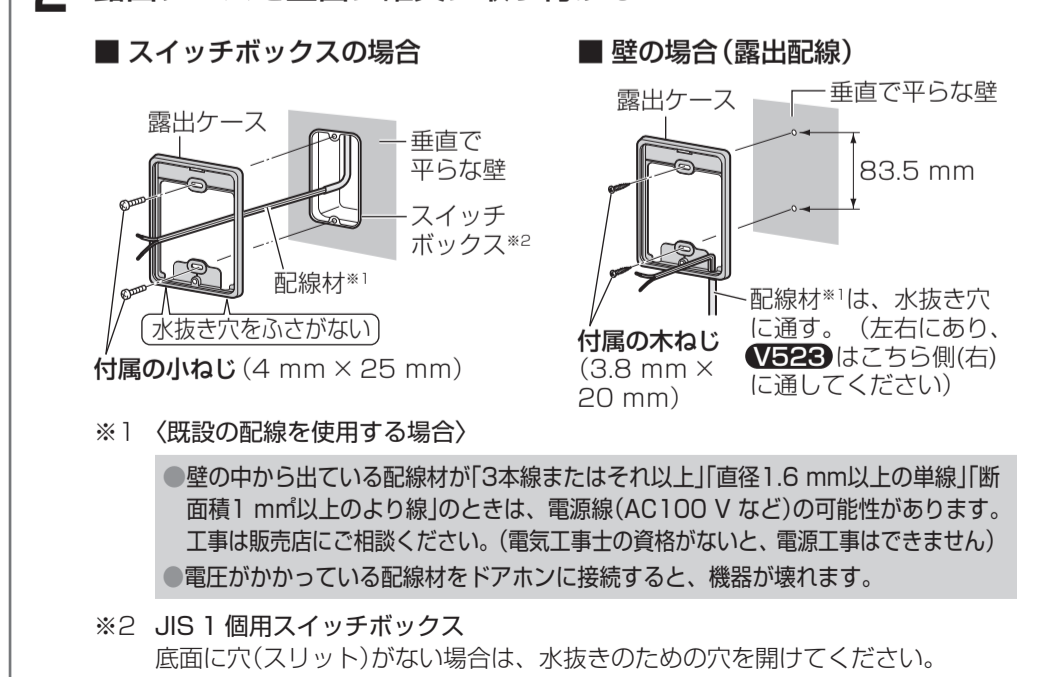
<エントランスボールやサインポストに取り付けるとき>
 ● エントランスボールやサインポストの説明書に従い、正しく取り付けてください。
 ● サインポストへの取り付けの場合
 → 蛍光灯回路(AC100 V)とは別のケーブルを使用し、新しく配線してください。
 → カメラ角度調節台(別売品)は、使用できません。

2 ドアホンを取り付ける

1 前面パネルと露出ケースを外す



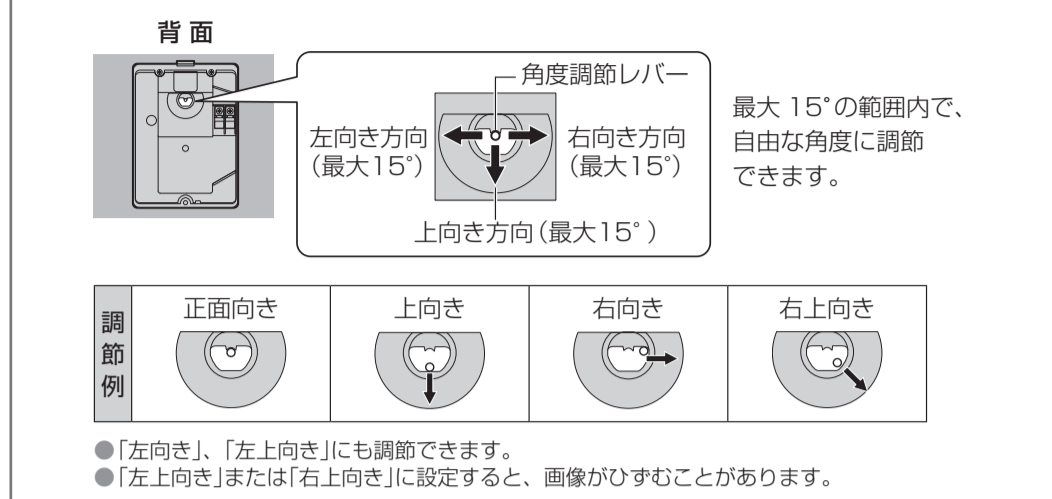
2 露出ケースを壁面に確実に取り付ける



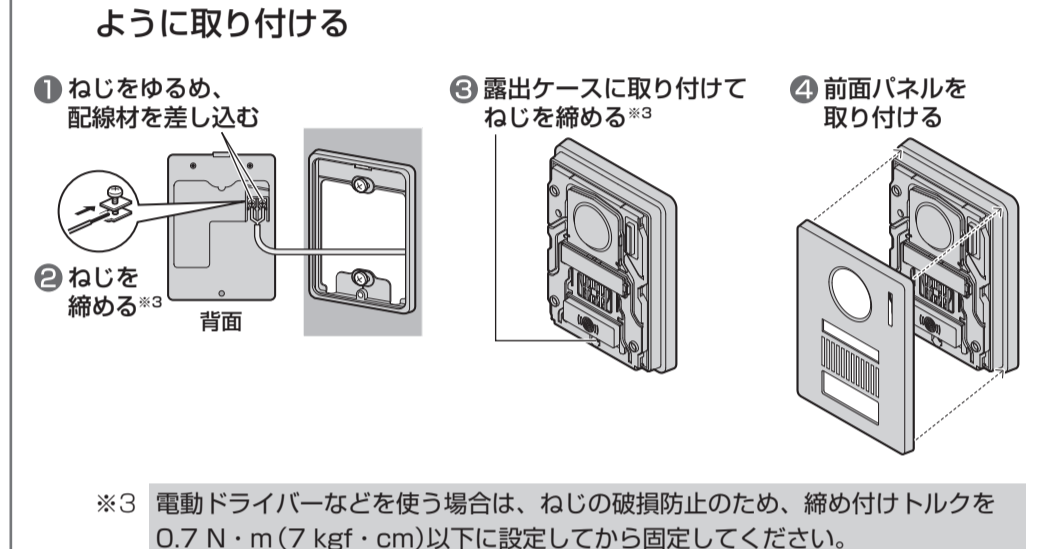
3 ドアホン親機を取り付ける

3 ■ V572Lの場合 手順4へ

■ V523の場合 カメラレンズの角度を調節する

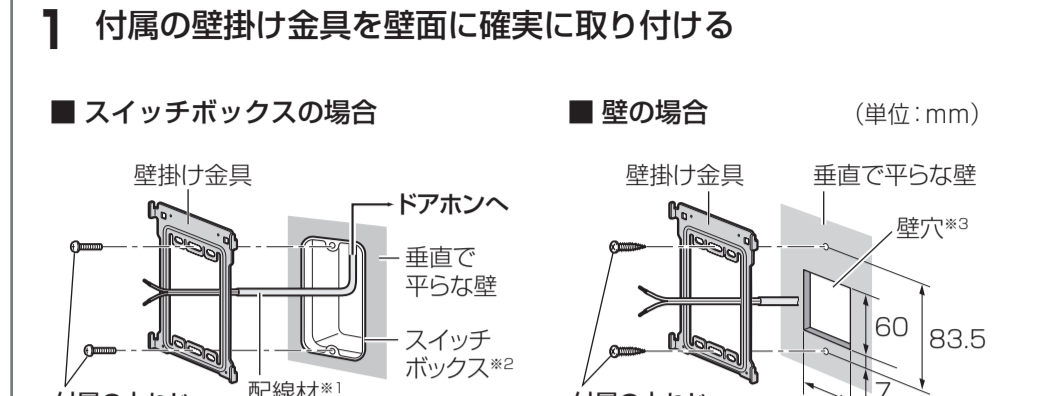


4 本体に配線材を接続して露出ケースに固定し、前面パネルを元のように取り付ける



4 ドアホン親機を取り付ける

1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける



※1 <既設の配線を使用する場合>

- 壁の中から出ている配線材が「3本線またはそれ以上」「直径1.6 mm以上の単線」「断面積1 mm²以上のより線」のときは、電源線(AC100 V)などの可能性があります。工事は販売店にご相談ください。(電気工事士の資格がないと、電源工事はできません)
- 電圧がかかっている配線材をドアホン親機に接続すると、機器が壊れます。

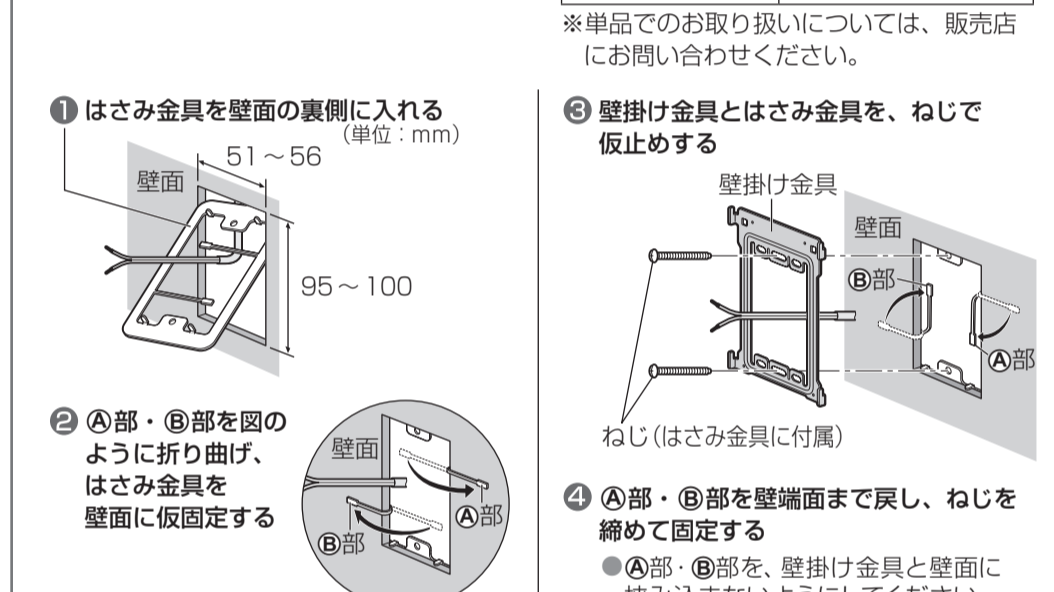
※2 JIS1 個用スイッチボックス

電源線とその他の信号配線材などが混在する場合は、絶縁セパレーターを取り付けてください。

※3 スwitchボックスを使用せずに壁の中から配線する場合には、壁穴を開けてください。

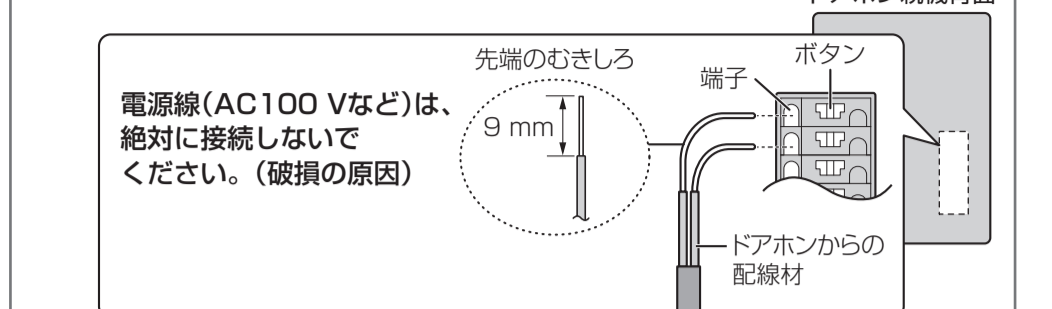
■ パネル壁(石こうボード)の場合

壁に下図のように穴を開け、脱落を防止するため、右記のはさみ金具を使って取り付けてください。



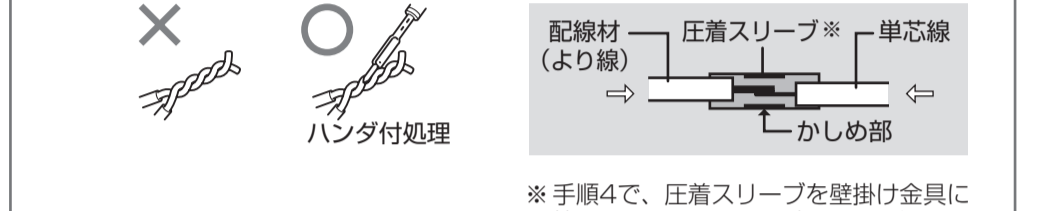
3 配線材を接続する

- 配線系統図(※)に従って正しく接続してください。
- 配線材は、各端子の横にあるボタンをドライバーの先などで押しながら抜き差ししてください。

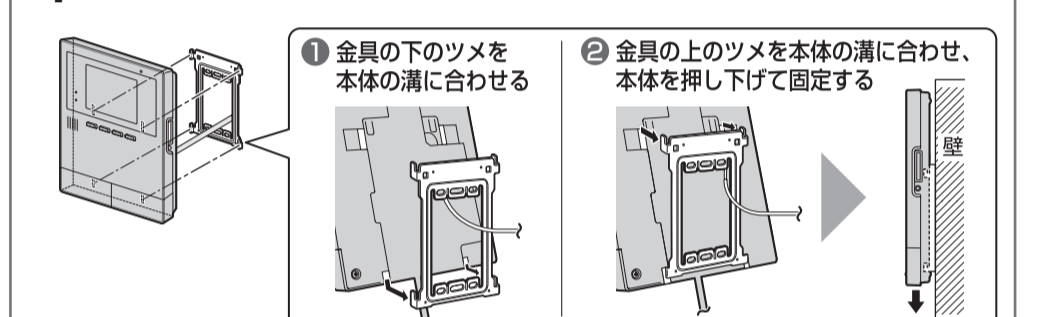


配線材の線種が「より線」の場合

- 単芯線と結線して使用する
結線部をハンダ付処理してテーピングで絶縁するか、市販の単芯線(50 mm以上)と圧着スリーブで圧着処理を行ってください。(結線部をよじっただけでは、接触不良になるおそれがあります)



4 ドアホン親機を取り付ける



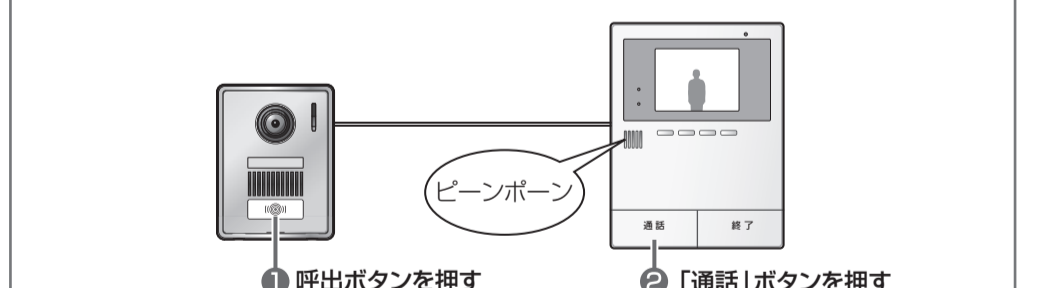
5 [電源プラグで使用する場合のみ] 電源プラグのキャップを外して、コンセント(AC100 V)に差し込む

- 落雷による機器の故障を防止するために、雷サージ防止付きのコンセント(市販品)に差し込むことをお勧めします。

5 正しく動作するか確認する

取り付け・接続後、正しく配線できているか下記の手順で動作を確認してください。

- 1 ドアホンの呼出ボタンを押し、ドアホン親機で呼出音が鳴り、映像が映ることを確認する
- 2 ドアホン親機の「通話」ボタンを押し、ドアホンと通話できることを確認する
● 確認が終わったら、ドアホン親機の「終了」ボタンを押す



ドアホン親機が動作しないとき (「U11」が表示される、呼び出さない、映像表示しないなど)

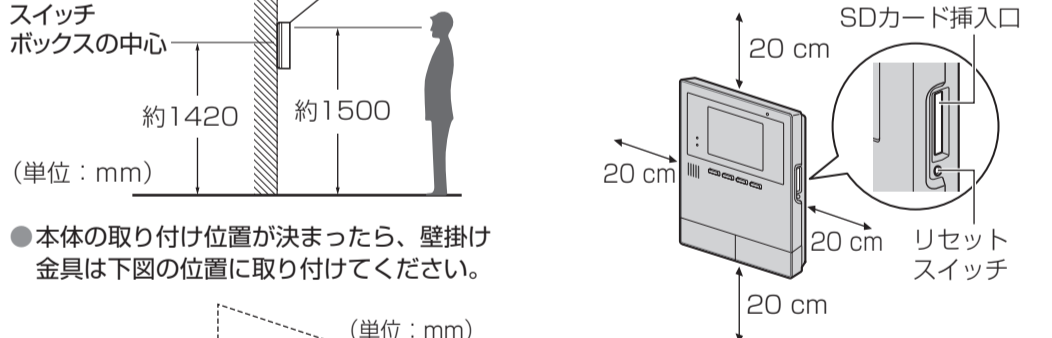
正しく配線されていない可能性があります。次のことを確認してください。

- ドアホン側、ドアホン親機側の端子に、それぞれ配線材が確実に接続されていますか?
 - 正しく接続したのにドアホン親機が鳴らない場合、壁内での配線に異常がある可能性があります。下記の手順で、確認してください。
- ① いったんドアホンを外してドアホン親機の近くに持っていく
 - ② 短い配線材などを使って右図のように直接つなぐ
 - ③ 再度、動作を確認する
→ 正常に動作すれば、壁内の配線に問題があります。配線を確認してください。

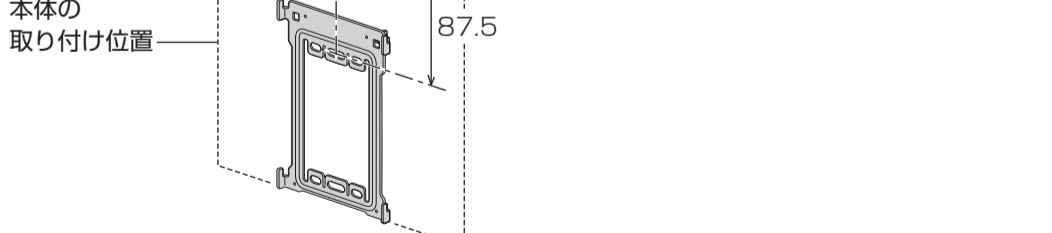
3 ドアホン親機の取り付け位置を決める

本体と壁掛け金具の取り付け位置

- 本体は、よくご利用になる方の目の高さに画面の中心がくるよう取り付けてください。(下図は、画面の中心を床から約1500 mmの高さにするときの例です)
- 本体の上下左右には、下記のための空間を20 cm以上とってください。
・誤動作や通話の途切れ防止
・SDカードの出し入れ、リセットスイッチの操作

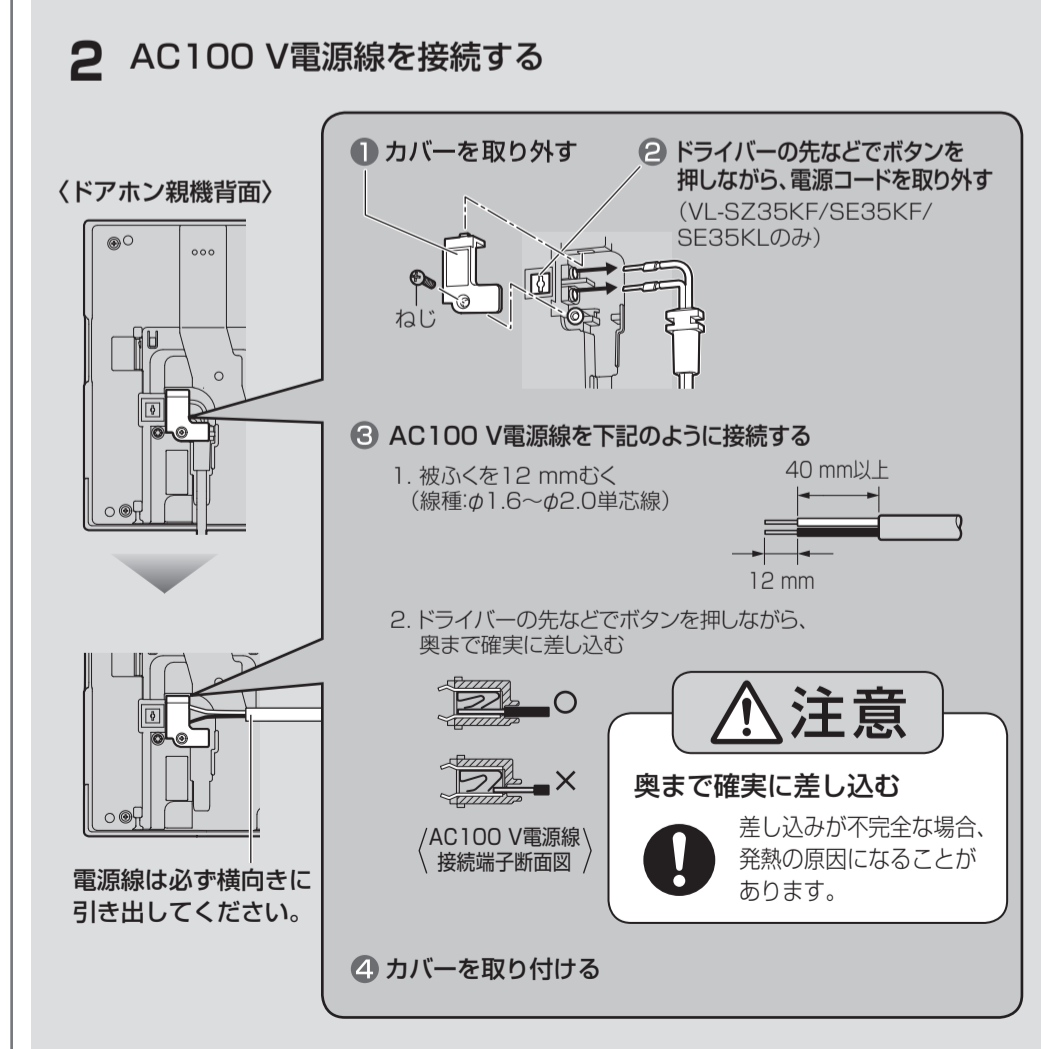


2 露出ケースを壁面に確実に取り付ける



AC100 V 電源線を直結する場合 VL-SE35XLは必須 (電気工事士の資格がない方は、絶対に作業しないでください)

2 AC100 V 電源線を接続する



ドアホン背面の接続端子「玄関機1」につなぐ

